



シーズ名 肝疾患の予防に関する分析疫学研究

氏名・所属・役職 大藤 さとこ・医学研究科 公衆衛生学・准教授

<概要>



- * わが国では、肝臓がんの主要な原因はC型肝炎ウイルス感染。
- * C型肝炎ウイルスの感染者は、わが国全体で約200万人にのぼると推定。
- * 近年、C型肝炎患者における抗ウイルス療法の有効率は90%以上に。
- * しかし、C型肝炎ウイルス除去後でも肝臓がんを発生する患者が存在。



私たちのグループでは

分析疫学手法を用いて
肝疾患の予後に影響する生活習慣・食習慣を明らかにして、
肝疾患の進展を予防することを目標としています。

<アピールポイント>

- * これまでに、医学研究科・肝胆膵内科と共同で、C型肝炎の方を対象とした疫学調査を実施
 - ⇒「毎日のコーヒー摂取」が「ALT安定化」や「肝がんのリスク低下」に有用であることを報告
 - ⇒「夜食摂取」が「肝がんのリスク低下」に有用であることを報告
 - ⇒「飲酒習慣」と「肝がんリスク」との関連を報告
- * 現在、医学研究科・肝胆膵内科、肝胆膵外科と共同で、
抗ウイルス療法により肝炎ウイルスが排除された方を対象に、**予後と関連する生活習慣**を調査中。

<利用・用途・応用分野>

- * 研究結果は、以下の利用、応用が可能です。
 - **医療現場**において、
「食習慣などの生活習慣改善を積極的に推奨する根拠」となります。
 - **臨床科学の分野**では、
「予後改善に有用な栄養素」を産業開発に応用することも可能です。

<関連する知的財産権・引用文献・学会発表など>

1. Effect of caffeine-containing beverage consumption on serum alanine aminotransferase levels in patients with chronic hepatitis C virus infection: a hospital-based cohort study. Plos One 8: e83382, 2013.
2. Does a late evening meal reduce the risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic hepatitis C? Hepatol Res. 38: 860-868, 2008.
3. Coffee consumption and reduced risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic type C liver disease: A case-control study. Hepatol Res 36: 201-208, 2006.

<関連するURL>

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/departments/toshi-publichealth.shtml>
<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2013/2v91vf>

<他分野に求めるニーズ>

疾患の発生メカニズム

キーワード

肝疾患、予防、疫学、生活習慣、食習慣、栄養